

道德性発達理論の現状と 教育現場への示唆

東北大学大学院教育学研究科
長谷川真里



1

1. 発達研究の現状	2. 正解の不在	3. 道德性の発達とは	4. 教育への示唆
------------	----------	-------------	-----------

概要

近年の道德性発達研究は、心理学以外の学問領域にまで拡大し、一種のブームのようになっている。本話題提供では、多様な「道德」の定義や発達理論を整理し、文化間で、あるいは人々の対話の中で、道德判断が対立する理由を考える。その上で、認知と感情の統合が道德性の発達において重要であることを提案する。以上を踏まえて、日本の道德教育への示唆を行う。

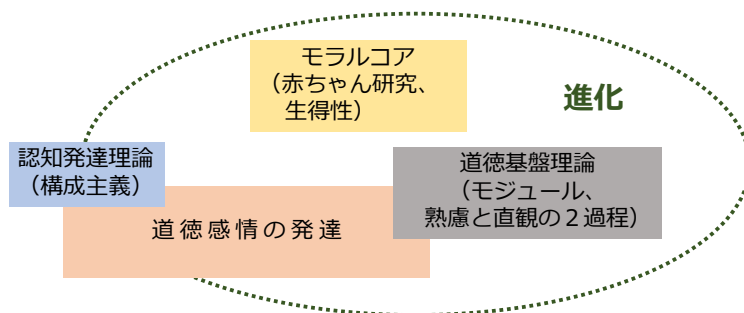
本日の流れ

1. 道德性発達研究の現状
2. なぜ道德判断が対立するのか：正解の不在
3. 道德性の発達とは
4. 道德教育への示唆

2

1. 発達研究の現状

- ▶ 道德的認知の発達理論とその批判（～1990年代まで）
- ▶ 生得性、感情・直観への注目
他領域への拡大（神経科学、社会学、経済学、進化心理学等）
→ 2000年以降：道德性発達研究の発展と理論の乱立（？）



Killen, M., & Smetana, J. G. (2015). Origins and development of morality. In M. E. Lamb & R. M. Lerner (Eds.), *Handbook of child psychology and developmental science: Socioemotional processes* (7th ed., pp. 701–749). John Wiley & Sons, Inc.

3

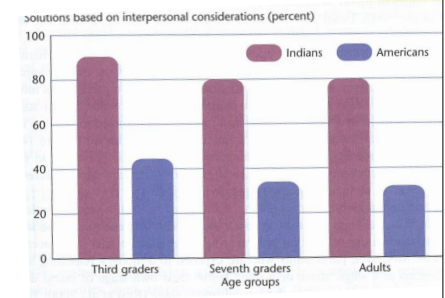
例

親友の結婚式に出席するために急いでいた。次の列車に乗らなくてはならない。結婚指輪を届けることになっていたのである。しかし、切符の入っていた財布を盗まれてしまった。いろいろ助けを求めるが誰もお金を貸してくれない。がっかりして座っていたベンチで、隣りにいた紳士が上着を置いて用足しに出かけている。その上着のポケットから列車の切符がのぞいている。それを使えば結婚式に間に合う。この紳士はお金を十分持っていて切符を買い直すことができる。

あなたは、次の二つの意見のうちどちらに賛成しますか？

- ① たとえ親友に結婚指輪を届けられなくても、切符を盗んではいけない。
- ② たとえ切符を盗むことになっても、結婚指輪を渡すべきだ。

Miller, J. G., & Bersoff, D. M. (1992). Culture and moral judgment: How are conflicts between justice and interpersonal responsibilities resolved? *Journal of Personality and Social Psychology*, 62(4), 541–554.



4

2. 正解の不在

なぜ道徳判断が対立するのか？：進化の観点から

親友の結婚式に出席するために急いでいた。次の列車に乗りなくてはならない。結婚指輪を届けることになっていたのである。しかし、切符の入っていた財布を盗まれてしまった。いろいろ助けを求めるが誰もお金を貸してくれない。がっかりして座っていたベンチで、隣りにいた紳士が上着を置いて用足しに出かけている。その上着のポケットから列車の切符がのぞいている。それを使えば結婚式に間に合う。この紳士はお金を十分持っていて切符を買い直すことができる。

▶ 同情を中心とする近親者への道徳性から共同社会を前提とする公平の道徳性への進化の過程

- (1) ヒトとヒト以外の霊長類との共通祖先（600万年前頃）
- (2) 初期ヒト（40万年前頃、ホモ・ハイデルベルゲンシスの頃）
- (3) 現生ヒト（15万年前頃、ホモ・サピエンスが登場した頃）

→人間は**複数の**道徳性を同時に有している

Tomasello, M. (2016). *A natural history of human morality*. Harvard University Press.

5

2. 正解の不在

なぜ道徳判断が対立するのか？：構成主義の観点から

親友の結婚式に出席するために急いでいた。次の列車に乗りなくてはならない。結婚指輪を届けることになっていたのである。しかし、切符の入っていた財布を盗まれてしまった。いろいろ助けを求めるが誰もお金を貸してくれない。がっかりして座っていたベンチで、隣りにいた紳士が上着を置いて用足しに出かけている。その上着のポケットから列車の切符がのぞいている。それを使えば結婚式に間に合う。この紳士はお金を十分持っていて切符を買い直すことができる。

- ▶ 文脈によって意味が変わる：判断者が自律的に解釈
- ▶ 文脈の中に含まれる複数の価値を判断者が調整
- ▶ 文脈の中に含まれる文化的想定が判断に影響

Killen, M., & Smetana, J. G. (2015). Origins and development of morality. In M. E. Lamb & R. M. Lerner (Eds.), *Handbook of child psychology and developmental science: Socioemotional processes* (7th ed., pp. 701–749). John Wiley & Sons, Inc.

Turiel, E. (2002). *The culture of morality: Social development, context, and conflict*. Cambridge University Press.

6

2. 正解の不在

なぜ道徳判断が対立するのか？：道徳基盤理論の観点から

親友の結婚式に出席するために急いでいた。次の列車に乗りなくてはならない。結婚指輪を届けることになっていたのである。しかし、切符の入っていた財布を盗まれてしまった。いろいろ助けを求めるが誰もお金を貸してくれない。がっかりして座っていたベンチで、隣りにいた紳士が上着を置いて用足しに出かけている。その上着のポケットから列車の切符がのぞいている。それを使えば結婚式に間に合う。この紳士はお金を十分持っていて切符を買い直すことができる。

- ▶ 文化や階級に特徴的な道徳基盤がある
 - 自律重視の西洋と**調和と義務重視の東洋**
- ▶ 直観的判断が先行し、後で理由を考える
 - 判断の修正は難しい

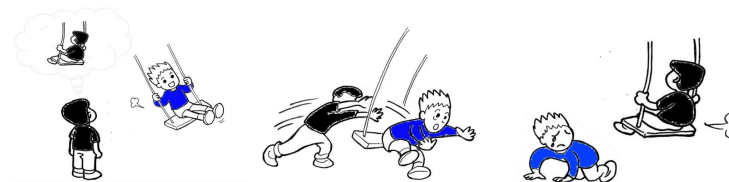
Haidt, J. (2001). The emotional dog and its rational tail: A social intuitionist approach to moral judgment. *Psychological Review*, 108(4), 814–834.

Haidt, J. (2012). *The righteous mind: Why good people are divided by politics and religion*. Pantheon/Random House.

7

3. 道徳性の発達とは

- ▶ 認知と行動の不整合（なぜ？）
 - 認知か感情か？ → 認知も感情も → 認知と感情の**統合**
 - （例）**×**道徳規範を理解するが感情理解が不十分
 - ×**同情や共感はあるが道徳的な動機づけがない



- ▶ 主人公（黒い服の子ども）はどんな気持ちになりますか？
 - 8歳未満の子どもの多くは「嬉しい」気持ちになると回答
 - 「悲しい」気持ちを報告した子どもは、罪悪感を理解し、援助行動の傾向高い
- ▶ 子どもの表情と視線の分析からわかること
 - 幼児/低学年：表情も判断も「嬉しい」、小学中学年：表情は「嬉しい」判断は「悲しい」、小学高学年：表情も判断も「悲しい」

Malti, T., Dys, S. P., Colasante, T., & Peplak, J. (2018). Emotions and morality: New developmental perspectives. In C. Helwig (Vol. Ed.) and M. Harris (Series Ed.), *Current issues in developmental psychology: New perspectives on moral development* (pp. 55-72). New York: Psychology Press.

- ▶文化の影響は大きい
ただし、自律的な判断か自動的な判断かは理論により対立する
- ▶認知と感情の統合は時間をかけて発達していく
道徳性の発達には両方が必要、かつ統合が必要ではないか？
- ▶「道徳の時間」において上記の要因は意識されていないかもしれない
教材や発問自体に日本文化の影響があるかもしれない
他者の立場に立てば全てが解決するわけではない

